

二〇七一番

あまがは 天の川 なづさひ渡り 君が手も いまだまかね
よ ば 夜のふけぬらく

二〇七二番

わた もり 渡り守 舟渡せをと 呼ぶ声の 至らねばかも
かち おと 梶の音のせぬ

二〇七三番

けなが ま日長く 川に向き立ち ありし袖 今夜まかむ
おも と 思はくの良さ